

生物多様性がもたらす恩恵と、事業活動が与える影響を認識して策定した行動指針のもと、生物多様性の保全に努めています。

生物多様性保全に対する基本方針

地球環境への意識が世界的に高まる中で、企業が取り組むべき環境課題はますます多様化しています。富士電機が従来から取り組んできた地球温暖化防止や資源循環、化学物質管理などの環境負荷低減活動に加え、近年は生物多様性への配慮も求められるようになってきています。

こうした中で富士電機は、「事業活動が生物多様性からの恵みを受け、また影響を与えている」との認識のもと、事業活動が生物多様性に与える影響の最小化を図るとともに、製品・サービスの提供や社会との連携を通じて、生物多様性保全に貢献していくよう努めています。2010年3月に「生物多様性行動指針」を策定し、取り組みを推進しています。

富士電機生物多様性行動指針

1. エネルギー関連事業で環境負荷を低減し、生物多様性保全に貢献する

富士電機は、エネルギーサプライチェーン(エネルギーの生産から使用まで)の中で省エネルギー、創エネルギー等の技術開発に積極的に取り組むことで社会全体の環境負荷低減を図り、生物多様性保全に貢献します。

2. 事業活動における生物多様性への影響の最小化を図り、持続可能な利用に努める

富士電機は、事業活動のすべての場面及び製品のライフサイクルにおいて生物多様性に及ぼす影響の最小化を図り、持続可能な利用に努めます。

3. 社会と連携し、生物多様性保全に配慮した活動を積極的に推進する

富士電機は多様なステークホルダーと連携し、生物多様性に配慮した事業活動及び社会貢献活動を積極的に推進します。

2012年度の取り組み

富士電機は、電機・電子4団体[※]にて生物多様性保全の推進を目的として2011年5月に発足した「生物多様性ワーキンググループ」に参加しています。

2012年度は、会員各社が活動事例を紹介しあい、生物多様性をどのように捉え、自社の中で位置づけるか参考にしながら、取り組みを進めています。

※電機・電子4団体：(一社)電子情報技術産業協会／(一社)情報通信ネットワーク産業協会／(一社)ビジネス機械・情報システム産業協会／(一社)日本電機工業会。

外来植物の駆除

富士電機パワーセミコンダクタ社飯山工場では、2012年度より、工場の構内および周辺に生息するワルナスビや、セイタカアワダチソウなど、外来生物法で要注意外来生物に指定されている外来植物を駆除し、地域固有種の保全を進めています。